

カリフォルニアの風（10月号）

「読書」

今日はハロウィン。

ハロウィンになると、家の玄関や窓が装飾され、仮装した人たちを見かけるようになります。その様子を見るたび、起源や理由をたずねたり調べたりと思うのですが、未だにそれができていません。今日こそはと思っています。

さて、過日催していただきました「古本市」の後、冒険ものの本や、魔女とかゴーストとかの怖いものをテーマにした本、探偵ものなどを読んでいるお友だちの姿を見かけました。夢中になって読んでいる姿に感心し、「どんな内容の本ですか」とたずねますと、興味を持って読んでいるところをそれぞれお話してくれました。

そのとき、古本市をしていただき、子どもたちが本に触れる機会をつくってくださったことへの感謝の想いで心がいっぱいになりました。ありがとうございました。一方、図書コーナー開設に向けた準備にも勤しんでくださっています。心から感謝しています。ありがとうございます。読書の重要性はいくら強調しても過ぎることはなく、図書コーナー利用により本に触れる機会がさらに増えることを期待しています。

先日、「日本語の技法：読む・書く・話す・聞くー4つの力（著書：斎藤孝）」を読みました。その中に、「本を読む行為が心を鍛える」という内容がありました。

著者は、かの吉田松陰「万巻の書を読むに非ざるよりは、いづくんぞ千秋の人たるを得ん」の言葉を、「多くの本を読まずして、どうして後世に名を残すような人物になれるだろうか」と説明され、「本の内容もさることながら、『読む』という行為そのものが向上心に火をつけ、心を鍛えることにつながると、松陰は自覚していたのだろう」と結んでいます。

その本に触れて以降、子どもたちが本を読んでいる姿を見かけると、書き手のメッセージをどのように受け取っているのだろう、どんな影響を受けているのだろうなどと想って観ています。向上心とは、「高い目標に向かっていく気持ち、目標を目指して努力する心、成長しようとする心」のことと考えると、補習校に通う子どもたち一人一人、お家の皆様のご協力による「読書」を通して、自分が目指しているものの達成に向けた具体的な行動を学び、着実に歩みを進める人に育ってほしいなと思っています。

補習校に通う子どもたちは「グローバル人材の原石」です。だからこそ、子どもたち一人一人を見つめていると、それぞれの目標が、カリフォルニアの青い空に向かうように「より高く」と想っています。